８．自然的環境等

8-01　地形・水系・地質条件
8-02　気象状況
8-03　緑の状況
8-04　動植物調査

調査項目：8-01　地形・水系・地質条件

■調査目的　　土地分類及び水系状況や急傾斜地等の分布状況を把握する。

■収集方法

【ａ収集項目】　位置、名称

【ｂ収集範囲】　行政区域

【ｃ収集単位】　水系、急傾斜地、活断層、地質毎

【ｄ収集方法】　・地形については、土地条件図（国土地理院の HP より入手可能）、治水地形分類図（国土地理院の HP より入手可能）、土地分類基本調査（不動産・建設経済局情報活用推進課の HP より入手可能）をもとに整理する。
・水系については、主要水系調査（一級水系）利水現況図（不動産・建設経済局情報活用推進課の主要水系調査成果閲覧システム）をもとに整理する。
・地質条件は土地分類基本調査（表層地質図、土壌分布図）（不動産・建設経済局情報活用推進課の HP より入手可能）をもとに整理する。

収集データの例
国土地理院土地条件図 https://maps.gsi.go.jp/#5/35.362222/138.731389/&base=std&ls=std%7Clcm25k_2012&disp=11&lcd=lcm25k_2012&vs=c1j0l0u0f0&d=vl（URL❶）
国土地理院治水地形分類図 https://maps.gsi.go.jp/#6/38.419166/137.548828/&base=std&ls=std%7Clcmfc2&blend=0&disp=11&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1（URL❷）
土地分類調査・水調査 5 万分の 1 土地分類基本調査 https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/l_national_map_5-1.html（URL❸）

【ｅ留意事項】　・短期的に変化するデータでは無いことから、前回調査から大規模な地形改変のあった場合などに、更新を行う。

■作成項目

【ｆ原典リスト】

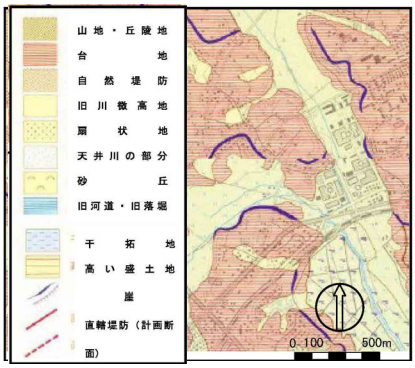
項目	原典データ	年次	入手先
地形図	※土地条件図、地形分類図、土地分類基本調査等の資料名を記載	最新年を記載	適宜記載
水系図	※主要水系調査（一級水系）利水現況図等の資料名を記載	最新年を記載	適宜記載
地質条件	※土地分類基本調査等の資料名を記載	最新年を記載	適宜記載

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。
※原典データの入手先が URL の場合は d.収集方法の「収集データの例」の URL を参照

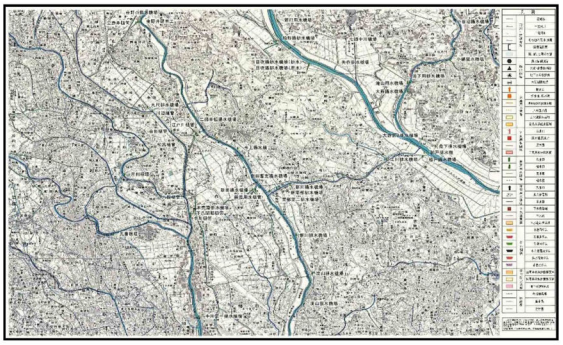
【ｇ調書】　－

【ｈ位置図】

＜地形図（治水地形分類図）＞
（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））



＜水系図（主要水系調査（一級水系）利水現況図）＞
（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））



【ｉ集計表】　－

調査項目：8-02　気象状況

■調査目的　　気温、降水量、積雪量などの気象条件を把握する。

■収集方法

【ａ収集項目】　気温、風向、風速、降水量等

【ｂ収集範囲】　行政区域

【ｃ収集単位】　観測点毎

【ｄ収集方法】　・気象庁の観測データ、大気汚染常時監視測定局の測定データ等から収集。

収集データの例
気象庁過去の気象データ・ダウンロード（指定時点を出力可能） https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php（URL❶）

【ｅ留意事項】　・前回の調査からの期間で毎日の記録の作成を基本とする。
・ヒートアイランド現象や水害対策に関する検討など、検討の目的に応じて時間帯別などのデータを収集することも考えられる。

■作成項目

【ｆ原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
・複数の原典データを元に作成している場合は項目ごとに分けて記載。 ・一括して同じ場合は「－」を記載。	○気象庁過去の気象データ・ダウンロード	最新年を記載	URL❶

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。
※原典データの入手先がURLの場合はd.収集方法の「収集データの例」のURLを参照

【ｇ調書】

＜調書＞

（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））

地点	年月日	降水量 総量 (mm)	降水量 1時間最大 (mm)	気温 平均 (℃)	気温 最高 (℃)	気温 最低 (℃)	風向・風速 平均風速 (m/s)	風向・風速 最多風向 (m/s)
	○年○月○日							
	：							

【ｈ位置図】　　－

【ｉ集計表】　　－

調査項目：8-03　緑の状況

■調査目的　　都市内に残る緑地等の状況を把握する。

■収集方法

【ａ収集項目】　緑被地（樹林地、草地、農地等の別）及び水面の位置・面積

【ｂ収集範囲】　都市計画区域

【ｃ収集単位】　緑被地及び水面毎

【ｄ収集方法】　・航空写真、衛星画像、土地利用現況調査より収集・作成。

収集データの例
航空写真
衛星画像
3-02 土地利用現況調査

【ｅ留意事項】
- 簡易な作成方法に示された施設緑地及び地域制緑地等の状況を把握した上で、標準的な作成方法にある調査を行い、把握することが望ましい。
- 「低炭素都市づくりガイドライン」又は「低炭素まちづくり計画作成マニュアル」に掲載されている手法を活用し、高木本数、緑地面積又は管理状況等ごとのみどりの面積から、都市のみどりによるＣＯ２吸収量を算定することが可能。
- 広域に緑地の状況を把握しているもののうち、当該地方公共団体を対象とするデータがあれば、参考にすることも考えられる。
- 収集範囲については、緑の連続性を考慮して行政区域とすることも考えられる。

■作成項目

【ｆ原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
・複数の原典データを元に作成している場合は項目ごとに分けて記載。 ・一括して同じ場合は「－」を記載。	○航空写真、衛星画像、土地利用現況調査等の資料名を記載	最新年を記載	適宜記載

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。

【ｇ調書】　　－

【ｈ位置図】

＜緑被分布図＞

（標準的な作成方法）

○航空写真・衛星画像より判別

・マルチバンドの衛星画像や航空写真を用いた正規化植生指標(NDVI)等による分類、航空写真の目視判読、これらと地図・土地利用現況調査結果等を併用した判読等により、緑被及び水面の位置、面積、緑被の種類（樹林地、草地、農地の別）を分類する。

（簡易な作成方法）

○土地利用現況調査等より把握

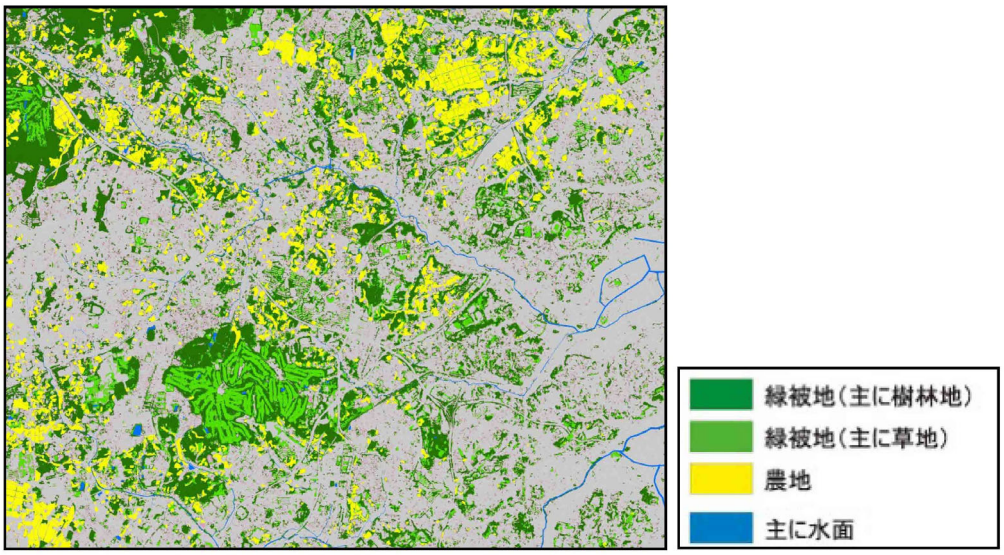
・樹林地や農地等の自然的土地利用を土地利用現況調査等から把握する。

・以下の施設緑地、地域制緑地を、庁内資料や地図、土地利用現況調査等から把握する。

施設緑地　：公共施設緑地（都市公園、河川緑地・歩行者専用道路等）、民間施設緑地（公開空地・寺社境内地、民間の屋上緑化空地、民間の動植物園等）等

地域制緑地：生産緑地、河川区域、農用地区域、特別緑地保全地区、近郊緑地特別保全地区等の法に基づく緑地、条例に基づき保全される緑地等

（〇〇市（基準日：〇〇年〇〇月〇〇日現在））



出典：横浜市第9次緑地環境診断調査（平成21年度）、横浜市

（緑被分布図の凡例）

項目	面 色指定（RGB）		縁 色指定（RGB）		線の太さ
緑被地（主に樹林地）		0,140,60		なし	
緑被地（主に草地）		80,180,50		なし	
農地		250,240,0		なし	
主に水面		0,120,200		なし	
行政区域		なし		0,0,0	
都市計画区域		なし		150,150,150	
市街化区域		なし		255,130,40	

【ｉ集計表】

・市町村単位での集計表を作成する。

・行政区や学区等、地域の実情に応じて分類する地区ごとに集計することも考えられる。

（〇〇市（基準日：〇〇年〇〇月〇〇日現在））

市町村名	緑被地面積（ha）				水面面積（ha）
		樹林地（ha）	草地（ha）	農地（ha）	
A市					
B市					
：					

＜コードリスト＞

・集計表の各項目のコードは下表のとおりとする。

コード	説明
1	樹林地
2	草地
3	農地
4	水面

調査項目：8-04　動植物調査

■調査目的　　自然環境の保全及び公共空地系統の整備の計画策定の基礎資料とするため、動物及び植物の分布状況を把握する。

■収集方法

【a 収集項目】　植物の分布状況、動物の分布状況

【b 収集範囲】　行政区域

【c 収集単位】　種又は分類群毎

【d 収集方法】　・自然環境保全基礎調査、河川水辺の国勢調査、環境省レッドデータブック、都道府県又は市町村による既存調査、庁内資料等から収集。
※植物の分布状況については、自然環境保全基礎調査結果〔環境省 HP〕の GIS データ（1/50,000、1/25,000 植生図）の活用が可能。。

収集データの例
自然環境保全基礎調査植生調査（植生自然度調査）(2010) https://www.biodic.go.jp/kiso/vg/vg_kiso.html#mainText（URL❶）

【e 留意事項】　・動物の分布状況については、自然環境保全基礎調査の動植物分布調査(生物多様性調査種の多様性調査)の活用や、個々の地方公共団体の環境部局等で調査を実施している場合、その成果を引用する。

■作成項目

【f 原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
・複数の原典データを元に作成している場合は項目ごとに分けて記載。 ・一括して同じ場合は「－」を記載。	○自然環境保全基礎調査、河川水辺の国勢調査、環境省レッドデータブック ○都道府県又は市町村による既存調査、庁内資料等の資料名を記載	最新年を記載	適宜記載

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。
※原典データの入手先が URL の場合は d.収集方法の「収集データの例」の URL を参照。

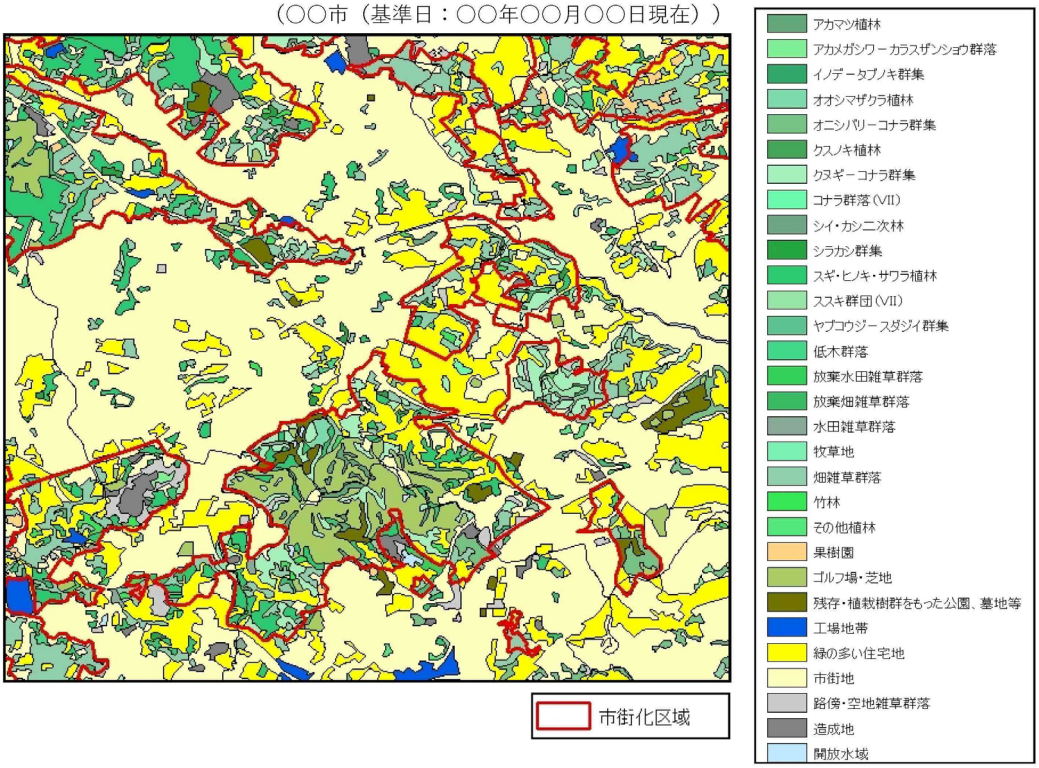
【g 調書】　　－

【ｈ位置図】

＜植生図＞

・自然環境保全基礎調査（植生調査）を活用し、種類、群集、群落等別に図上に記載する（作成イメージは下図を参照）。

（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））



＜動物分布図＞

・動物の分布については、鳥類、哺乳類、昆虫等の情報等を収集し、可能であれば生息の分布範囲も整理する。

【ｉ集計表】　　－